

2018年度看護学部入学試験問題

国 語

注 意 事 項

1 国語の問題冊子は18ページあり、問題は2問（解答番号 1 ～ 21）である。
問題冊子の白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。

2 別に解答用紙は、マークシート用解答用紙1枚（例）

と「Ⅱ 問5」用解答用紙1枚の計2枚ある。

受験番号欄には下4桁を記入し、マーク欄の該当するところをマークしなさい。

受験番号「09999」の場合は（例）の様に記入する。氏名を記入してはならない。

「Ⅱ 問5」用解答用紙に、受験番号を記入しなさい。氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号やマークが誤っている場合および無記入の場合は、国語の試験が無効となる。

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークして下さい。

受験番号				
0	9	9	9	9
●	○	○	○	○
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	●	●	●	●

3 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。マークはHB、Bの鉛筆（シャープペンシル可）で濃くマークしなさい。解答用紙を折ったり曲げたりしてはならない。例えば 2 と表示のある問に対して c と解答する場合は、次の（例）のようにマークシートの2の解答欄の c にマークしなさい。

指定欄以外へマークした場合は解答が読み取れなくなる場合があるため、記入しないこと。訂正は、消しゴムできれいに消すこと。

（例）

解答 番号	解答欄				
	a	b	c	d	e
1	(a)	●	(c)	(d)	(e)
2	(a)	(b)	●	(d)	(e)

（マークの仕方）

良い例	悪い例
●	○ ⊗ ○ ⊗ ○

注意事項の続きは本冊子の裏にあります

I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

つくった作品をわたしは、いつも他者の目で見ることになっている。自分では考えていたことが十分に現あらわわせたど納得なとくしていても、それはあくまでも内なる目で見られない。どこかでユルミが生じている可能性がないではない。その誤差をできるだけ縮めるためにも、また自分が出している思考性を、まったく見ず知らずの第三者においても、ある程度感知できる状態に、作品を構築しておかなければならないので、内なる目だけでは不足なのである。わたしは自分の作品を見るために、内なる目とともに外なる目をもつことにしている。外なる目はいわば第三者の他人の目である。この他者の目で冷徹に自分のモノを観察して、これを出してよいと思ったときには、ことはスムーズにいくのである。思考性、構築性の両輪が双方いいバランスを保っているときには、第三者の理解のしかたも早いように思われる。ところがどちらかにかたよっている状態のときが往々にしてある。それが **I** になされたものでないときには、やはりどこか無理があるように思われる。なおせるときにはなおす。

あ 確かに他者の存在があつてのモノというのであれば、すべてにそちらを優先させていいかもしれないが、実際にくくっているプロセスではそういかないことがある。板一枚切るにしても、ネジ一本刺していくにしても、それなりのやり方があるし、モノの全体の在り方を想定すれば、すべてが外なる目の基本に沿って、ただ、わかりやすくする方法はとることができない。内なる目、内なる思考や観念を **X** ないがしろにすることは、根本的に作品の構築もまた提示もできなくしてしまいかねない。それはモノをつくる人間としてはさけなければならぬことだから、外なる目がどれを許容し、どれを許容しないか、その〈許容の範囲〉を見きわめることがより重要になる。わたしはいつも **A** 〈許容の範囲〉の最大限のところを考え。それでもなお、〈許容の範囲〉を越え、外なる目には不可解なものしか映らないモノが出来上がることがある。その場合、内なる目として、外なる目がいかなる要求をしても、これ以上は変えられないと判断すれば、わたしは、外なる目が「アソコは、ちよつとこうしたほうがよい、そのほうがわかりよい」といったとしても、それを修正することはない。そのまま提示する。 **B** もちろん結果は〈理解できている〉のであるから、「そうですね」などといっているのである。

わたしは、他者の受けとり方を、できるだけ素直に考えようと思っている。〈作品〉が「わからない」というのであれば、「そ

うですね、つくり方が悪いですからね」といえるのであるが、「わかりにくい」といわれると、ちよつとことばに（ア）キユウ
してしまう。（わかりにくい）というのは、つくり方のせいかもしれないけれど、そうでないところも、ちよつとだけ感じるか
らである。*コンテンツポラリー・アートを見馴（な）れているかどうかにも関連している。それよりも（わかりにくい）という内容
について、自ら反省すると同時に、思考の構造について多く考えるところもある。すでにいったように作品は、イデアルな世
界の内容や意味をたずさえているものだから、ある程度ムズカシイのは当然として（他人の意識に立ち入っていくことを考え
れば）、ムズカシすぎるのはやはりマズイかもしれないと思う。

作品のなかで、単純にひとつの意味性や記号性しかないというのであれば、第三者にとつては、実に **II** に映るにちが
ない。いくらつくる人間がそのようなところを目指していても、時間につれてだんだんムズカシク、複雑になっていくことが
ある。（思考の構造性）は恐らくそのようにできていられると思われる。空間を広げれば広げるほど、時間がたてばたつほど、思考
は（複雑）になる。これには、個的な時間内容のみならず、多くの人間が含まれている現状の時間性や空間性、ものの事実性
の変化や転化も関係しているだろうと思われる。（わかりにくい）ということばは、それらさまざまな要素や要件がからみあつ
た状態を示している。ある部分は（わかる）が、ある部分は（わからない）という両側を含めて、（全体として）完全に理解で
きたように思われぬというの（わかりにくい）ということばが出る心境だろうと推測される。作品を前にしてなぜこのよ
うな心境になってしまふか考えてみるならば、ひとつは、現実にある状況あるいは世界もしくは空間といつていいが、そ
ういうものに対する自己認識にびつたり合わない部分があること、これにはレベルの問題もあるけれど、そこはとりあえ
ず Y 脇におくとして、ものがある事実空間と、自己のものをとらえる心的空間性との間にへだたりがあり、それを埋める「橋
渡し物体」がない場合である。自分がズレているのか、モノのほうが現実から（イ）ユウリしているのか、どちらにしてもモ
ノやそこにある重要な構築性にいたるシュ（ウ）ダン（記号性や認識性など）をもっていない場合はいずれにしても、（わかり
にくさ）が先行するだろう。そしてもうひとつは、自分（作品を見る人間）を含めて、C 多くの他者つまり見る側の人間が共
有している思考やイメージ、時代感覚や嗜好性の内側に、つくられたモノもつくつた者も入っていないのではないかと疑いを

もったときに、モノに対する〈わかりにくさ〉がどうしてもつきまとうのではないかと思う。この場合、つくられたモノが、単純なモノか複雑なモノかは、あまり関係がないだろう。モノの在り様を感じる個的な世界は、つくる人間も見人間的な程度との差こそあれ、平等にもっているけれど、〈わかりにくさ〉を基点に、両者のちがいを指摘するなら、見る人間は、〈わかりにくさ〉を **Ⅲ** 要素ととらえ、排除論理を働かせる。それに反してつくる側は、〈わかりにくさ〉を容認する位置をとり、肯定する論理を組み立てるといふことである。しかし、在るものを現実の場より受けとりやすいように、記号化とシステム化された現実の空間では、なかなか後者のような考えややり方は、好まれない。好まれないけれど、モノをつくる人間からすると、素材となる実体物、木でも石でも鉄などでも、実際に触っていくプロセスになると、従来の記号性や意味性が、ほんとうにそれは単純にたくさんの人間たちの「記号であり、意味なんだ」ということがわかるのである。D つくる人間は、そこで夜中に突然目が醒めるように、こまってしまうのである。つくることは単純にあるそれらのものを、どんどん〈複雑〉にしていかなければならないからである。わたしの仕事は、モロに物体性（石でも木でも土でも水でも、また人工物でも）を表に出しながら、現実には常駐している存在性とは、ちがった在り方を目指しているけれど、記号や意味として、すぐに察知できる構造にはなかなかかなりえないと、自覚はしている。むしろ一見、「なんだ、単なるものじゃないか」という見えてくれをとりながら、複雑でジューウ（エ）ソウ的な存在性の在り様やそれに対する観念の深化というべきものを出したい思いがある。そのためにも、見る人間の〈わかりにくさ〉は、わたしにとつて、多くのことを考えるキツカケにもなっており、それは単に（オ）インシヨウにのみとどまるものではなく、恐らく人間の思考基盤を支える道標になっているのではないかと思われるならない。

（菅木志雄『世界を（放置）する ものと場の思考集成』による）

（注） * コンテンポラリー・アート——現代美術。

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1
5

(ア) キユウして
a 救援物資をハイキユウする

1
b 不正をキユウダンする

c ロウキユウ化が進む

d 犬はキユウカクが鋭い

e 生活にコンキユウする

(イ) ユウリ
a アジア各国にガイユウする

2
b 彼はユウズウのきく人だ

c ユウキユウの平和を願う

d 地下水がユウシュツする

e 市に工場をユウチする

(ウ) シュダン
a 首相のダンワを発表する

3
b ダイダンエンを迎える

c トクダンの注意を要する

d カンダンの差が激しい

e サイダンに花を供える

(エ) ジュウソウ

4

- a 危険にソウグウする
- b 不安をイッソウする
- c 古代のチソウを調べる
- d 冠婚ソウサイのマナー
- e 場内がソウゼンとする

(オ) インシヨウ

5

- a 戯曲をインブンで書く
- b 絵にインエイをつける
- c 事件をインペイする
- d 荷物をフウインする
- e インガ関係を証明する

問2

空欄

6
8

I

III

に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の a ～ e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

6 I

- a 意識的
- b 忖意的
- c 希望的
- d 基本的
- e 偶然的

7 II

- a 無味乾燥
- b 不易流行
- c 意味深長
- d 荒唐無稽
- e 簡潔明瞭

8 III

- a 悲劇的
- b 消極的
- c 否定的
- d 排他的
- e 批判的

問3

本文中の空欄

あ

に入る一文として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

9

- a やはり、思考性と構築性のバランスが取れていることが望ましい。
- b しかし、外なる目がいつも内なる目に優先するわけではない。
- c 第三者が感知できる作品を構築することが最重要だからである。
- d だが、それによつて必ずしも第三者の他者の理解が早くなるわけではない。
- e 外なる目で見ること、自分と他者との認識の誤差を縮めたいからだ。

問4 傍線部X・Yの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

10

11

X ないがしろにする

10

- a 間違いだとする
- b 侮り軽んじる
- c 優先させる
- d 取りのぞく
- e 認めて受け入れる

Y 脇におくとして

11

- a 中心からはずれた事柄として
- b 周りの人に解決を任せるとして
- c 起こる可能性が低いとして
- d 重要だと認めないとして
- e いったん考慮しないこととして

問5 傍線部A〔許容の範囲〕の最大限のところ」とはどのようなところか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

12

- a 作品において、他者の理解のみを考慮するところ。
- b 作品において、他者の理解を最大限に考慮し、自分の思考の表現を最小限に抑えるところ。
- c 作品において、自分の思考の表現と他者の理解のしやすさがいいバランスを保っているところ。
- d 作品において、自分の思考を最大限に表現し、他者がなんとか理解できるところ。
- e 作品において、自分の思考のみを表現し、他者の理解を越えるところ。

問6

傍線部B「もちろん結果は〈理解できている〉のであるから、『そうですね』などといったのである」とあるが、何を「理解できている」のか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

13

- a 作品を他者にとってわかりやすいものとするために、外なる目の判断にしたがって内なる目の修正の要求に応じなかったことを自覚していること。
- b 他者に理解されるモノをつくるためには、外なる目の〈許容の範囲〉を見きわめることが重要だが、その見きわめがうまくいかなかったことを自覚していること。
- c 作品が他者に理解されるためには、思考性と構築性のバランスが保たれていることが重要であり、構築性にかたよった作品は他者に理解されないことを自覚していること。
- d モノをつくる人間として、常に外なる目よりも内なる目で見ることを優先するという信念にしたがったために、自分の作品が他者に理解されないことを自覚していること。
- e 他者にとってわかりやすいことよりも、自分の思考を表現することを優先したために、作品が他者にとって理解できないものになっていることを自覚していること。

問7 傍線部C「多くの他者つまり見る側の人間が共有している思考やイメージ、時代感覚や嗜好性」とあるが、これにあて

はまるものとして最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

14

- a ものがある事実空間
- b 自己のものをとらえる心的空間性
- c モノの在り様を感じる個的な世界
- d 従来^レの記号性や意味性
- e 思考基盤を支える道標

問8 傍線部D「つく、る人間は、そこで夜中に突然目が醒めるように、こまってしまうのである」とあるが、その理由として

最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

15

- a 複雑な存在性や深化した観念の提示を目指しても、実体物の外見は「単なるもの」でしかないことに気づくから。
- b 実体物に対して複雑な存在性を求めても、多くの人間にとつての自然な意味や記号にはなりえないことに気づくから。
- c 単純な記号性や意味性を帯びた素材を使って、それらと違った存在性をもった作品を制作する難しさに気づくから。
- d 人間の意思とは関係なくただ存在しているモノに対し、無理に存在性を添加しようとしていることに気づくから。
- e 実体をもつ単純なモノに対して、わざわざその記号性や意味性を問い直そうとしていることに気づくから。

問9

本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

16

- a 自分の思考性がつくつた作品に充分に現わしているかを、第三者の他人に確認してもらうことが重要である。
- b 作品が〈わからない〉のは、つくり方のせいではなく、コンテンポラリー・アートを見馴れていないせいである。
- c 作品が〈わからない〉ということは、作品のある部分は〈わかる〉が、ある部分は〈わからない〉ということである。
- d 記号化、システム化された現実の世界においては、〈わかりにくさ〉に対する見る側の考えややり方は好まれない。
- e 〈わかりにくさ〉について考えることは、「単なるモノ」にすぐにはわからない存在性を与えるヒントとなる。

II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

個人の満足や幸福を追求するだけでは、本当の満足や幸福は得られないという根源的な矛盾に、人々は気づくようになってきた。それは、大きく二つの理由による。

一つは、人間は自分の幸せのためにだけ生きようとしても、実はあまり幸せではないという本性をもっていることである。つまり、本当に幸せな人生を送るためには、人とつながり、人の幸せのために生きることも必要だということが、改めてわかってきた。

そして、もう一つは、各人が自分の満足や幸せのことばかりを考えて、「我が我が」と自己主張を始めると、実のところ、かなり生きづらい状況が生まれてくるということである。いじめは学校だけの問題ではない。職場にもはびこっている。誰もが自分を守ることに必死で、相手や周囲のことにまで気遣いする余裕をなくしている。そこにも、個を優先してきたことのツケが回ってきている。

A 家庭もまた然りである。親さえもが、もはや子どものために生きようとはしない。自己主張しないではいられない親が、つい主役のはずの子どもを押しつけて、自分が主役になってしまおうという状況も多い。子どもを置き去りにして、自分の満足のために突っ走る親を、子どもは冷ややかに見ている。

義理人情が通用し、年長者が敬われた社会は、やる気と能力のある個人にとって、「自己実現」を妨げる邪魔なものであったが、それが崩壊してみると、大部分の者は、経済的にも精神的にも貧しくなったことに気づかされる。個人の満足と幸福を優先する社会は、期待した幸福や満足をもたらすどころか、苦痛と傷つきに満ちた、寂しく、生きづらい状況を現出させているのだ。

この二つの理由のいずれもが、人間が社会的なつながりを切り離れたところで、満足や幸福を考えても、**B** それは絵に描いた餅にすぎないということを教えている。人間は、極めて社会的な生き物なのである。人間を社会的な関係から切り離して、個人として論じることが、人類の発展を地球環境から切り離して論じてきたのと同じ過ちを犯すことになる。

こうした再認識が高まる中で、社会性や社会的な能力、スキルといったものへの関心も高まっている。この十年ほど、そうした流れが加速してきている。この先十年では、さらにこの潮流は大きなものとなるだろう。

こうした人々の認識や社会を包む空気の変化とともに、学問分野でも、関心や視点のシフトが軌を一にして起きてきている。その一つは、前世紀の終わり頃から始まった、心理学や神経科学の領域でのトレンドの変化である。二十世紀の後半、心を扱うはずの心理学や神経科学を支配してきたのは、徹底して心を排除することにより、科学的であろうとする考え方であった。つまり、心とは主観的で、非科学的なものであり、そこに立脚した学問は、科学とはみなされなかったのだ。そのパラドックスを克服し、科学であるために、心理学者や神経科学者が、学問の対象としたのが、行動や認知であった。行動は、客観的に観察が可能である。何度餌を食べたか、レバーを引いたか、迷路を通過するのにどれだけ時間を要したか、それらはすべて客観的な数値データとすることができる。

一方、認知の理論は、さらに巧妙に心を扱う。心自体は解明できない*ブラックボックスとみなし、括弧でくくってしまつた上で、その代わりに、ある入力に対して、ある出力を行う情報処理過程を認知として捉える。つまり、ブラックボックスの中身を問題にせずに、いわば心を情報処理装置として扱つたのである。これによつて、主観的な体験としての心という面倒な問題を回避することができ、科学的な客観性を維持した上で、その過程を解明することが可能となった。認知科学は、大発展を遂げ、今や認知という観点を抜きにしては、心理学も精神医学も神経科学も発達科学も語れないほどだ。

C ところが、それで、人間の心の問題が片付いたわけではなかった。行動や認知は、確かに客観的に扱いやすく、「科学」するのには便利である。人間の心をコンピュータのプログラムのように考えることで、心の複雑怪奇な領域に踏み入ることなく、知的な処理だけで対処できるようになる。実際、D コンピューターは人間の心を模倣するだけでなく、人間と見分けがつかないように振る舞うことも可能だと考えた人も少なくなかつた。それは、心を認知的なプロセスだけで組み上げられるのではないかという壮大な夢であつた。

しかし、その夢は、少なくとも従来型のコンピュータでは実現不可能な幻想であることが、次第にはつきりしてきた。認

知的なシステムをいくら積み重ねても、心は作れない。それは、人間の心が認知システムだけでは成り立たないのと同じことであった。いくら理屈を積み重ねたところで、善悪の判断一つできないし、自分がソバとうどんのどちらを食べたいのかさえわからないのだ。人を好きになったり、子どもを育てることもできない。

なぜ心はこれらの価値判断ができるのか。その謎を解くカギは、ブラックボックスの中に、蓋をして残してきたものにあつた。それは、これまで不可解で、非合理的で、科学の対象にはならないものとして、排除され、蔑まれてきたもの——、情動であつた。

情動とは、恐怖、怒り、驚き、嫌悪、喜び、悲しみといった本能的で、理性を超えた体験である。それは、言葉以前の生々しい体験であり、認知的な理性が働くより先に人を捉え、体ごと揺さぶるような力をもつ。一方、認知科学や神経科学という感情とは、そうした情動的体験が、認知的な機能によって、意味づけされ、分化したもので、ある程度制御されている。つまり、感情は認知的な加工が、すでに施された体験なのである。

情動は、人類が誕生するはるか以前から、身を守り、生命を維持し、種を保存するために進化してきたものであり、人類も基本的にその遺産を受け継いでいる。つまり、情動は人間の中の動物的な体験の部分であるともいえる。

ところが、この極めて原始的で未分化なものと思われていた情動が、実は高度な認知や価値判断を行ったり、首尾よく社会生活を送る上で不可欠な役割をしていることがわかってきた。意思決定や学習という、これまで理性的と考えられてきた作業においてさえ、情動は重要な役割を果たしていたのである。情動がなければ、価値判断は不可能になり、相手が敵か味方かも、怒っているのか怖がっているのかも見分けがつかなくなる。情動は、認知や学習、社会的行動に深く関わっていたのだ。

(岡田尊司『社会脳 人生のカギをにぎるもの』による)

(注) *ブラックボックス——機能はわかるが、内部構造や動作原理のわからない装置。

問1 傍線部A「家庭もまた然りである」とあるが、「然り」の指している内容として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

17

- a 個人の満足や幸福を追求するだけでは、満足や幸福は得られないという矛盾に気づいていること。
- b 自分の満足や幸せのことばかりを考えて、相手や周囲に対して気遣いをする余裕をなくしていること。
- c はびこるいじめから自分を守ることに必死で、相手や周囲に対して気遣いをする余裕をなくしていること。
- d その場の主役が誰であるかを忘れ、主役のはずの人を押しつけて自分が主役になろうとしてしまうこと。
- e 社会よりも個人を優先するために、義理人情が通用せず、年長者が敬われなくなっていること。

問2 傍線部B「それは絵に描いた餅にすぎない」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

18

- a 根拠がなく、現実性に乏しいこと。
- b 大切なこととつまらないことを取り違えていること。
- c 方法がわからないために目的が達成できないこと。
- d 実現の見込みがなく、実際の役に立たないこと。
- e 見かけだけが立派で中身がともなわないこと。

問3 傍線部C「ところが、それで、人間の心の問題が片付いたわけではなかった」とあるが、「それ」の指している内容とし

て最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

19

- a 心を内部構造の不明な情報処理装置とみなし、情報処理過程を認知とすることで、客観性を維持したまま扱える対象としたこと。
- b 認知科学によって心を客観的に扱うことができるようになり、心理学や精神医学、神経科学、発達科学などが大きく発展したこと。
- c 心を排除し、客観的な観察によって数値データを得られる行動を学問の対象とすることで、心理学や神経科学が科学とみなされたこと。
- d 心を情報処理装置、外界からの情報の入出力を認知とし、認知の過程を解明することによって、心の内部構造が明らかになったこと。
- e 心をコンピュータのプログラムとみなすことで、知的な処理の積み重ねによって人間の心を再現することができるようになったこと。

問4 傍線部D「コンピューターは人間の心を模倣するだけでなく、人間と見分けがつかないように振る舞うことも可能だと

考えた人も少なくなかった」とあるが、その理由として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

20

a 人間の心の働きをコンピューターのプログラムになぞらえることで、心の未分化な領域を明らかにすることができる
と考えられたため。

b 人間の心を情報処理装置として扱い、科学的に心を解明した結果、人間の心とコンピューターの情報処理の手順が同
じであることが明らかになったため。

c 人間の心を認知的プロセスの積み重ねと考え、心の処理を行うようにコンピューターをプログラムすれば、人間と同
じように作動すると考えられたため。

d 人間の心は認知的プロセスの積み重ねではないが、人間の心を客観的に扱うことでコンピューターで再現することが
可能になると考えられたため。

e コンピューター技術が発展し、新型のコンピューターが発明されたことで、人間の心のような複雑な情報処理がコン
ピューターにも可能になると考えられたため。

問5 人間と同レベルの「認知」の機能を備えているが、「情動」を有しないロボットに人間の看護は可能であるか。この文章

で述べられた「認知」と「情動」の定義と両者の関係を明らかにしつつ、自分の意見を二百字以内で解答用紙に述べなさい。

21

注 意 事 項 続 き

- 4 問題冊子，解答用紙はともに持ち出してはならない。
- 5 試験終了後には，問題冊子の上に解答用紙（マークシート用解答用紙の上に「Ⅱ 問5」用解答用紙）を裏返して置きなさい。解答用紙，問題冊子の回収後は監督者の指示に従うこと。